

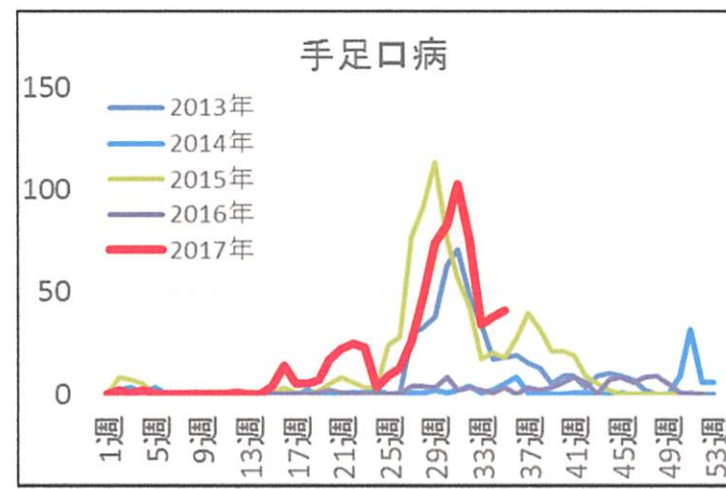
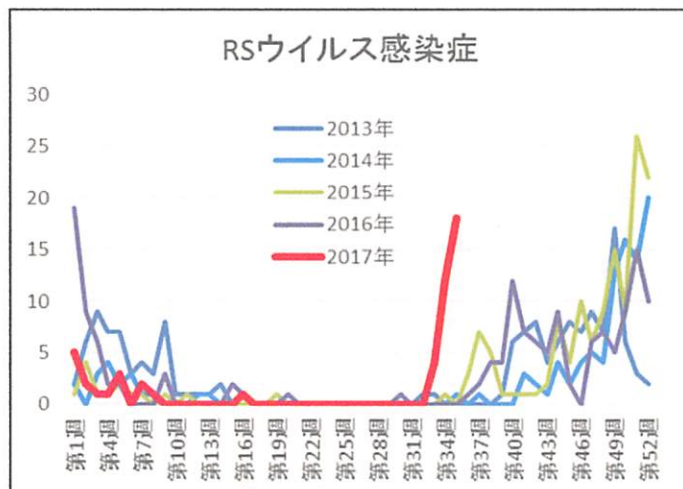
週間感染症情報

2017年34週～35週 2017年8月20日より2017年9月3日まで

	34週	35週
麻疹		
風疹		
水痘(みずぼうそう)		
ムンプス(おたふくかぜ)		
百日咳		
溶連菌感染症	5	5
手足口病	38	41
ヘルパンギーナ	2	2
伝染性紅斑	0	0
感染性胃腸炎	29	46
ロタウイルス(再掲)		
便アデノウイルス(再掲)		
突発性発疹	5	3
伝染性膿痂疹(とびひ)	26	23
ヘルペス性口内炎		2
アデノウイルス感染症	2	
RSウイルス感染症	12	18
マイコプラズマ感染症		
インフルエンザ(臨床診断含む)		
インフルエンザA		1
インフルエンザB		
A+B		

34週～35週2週間分の報告です。感染症は少ないです。朝晩涼しくなり、発熱と発疹が主の夏の病気が減少し、鼻汁・咳など感冒症状が主の秋の病気が増えてきました。これに伴い、感染を契機とした喘息発作も増えています。手足口病は流行のなかった施設で報告が増えています。2回り患の症例も増えて数種類のウイルスがあるようです。インフルエンザAは、カンボジアから帰国して2日目の女子大生でした。輸入感染症にも注意が必要です。RSウイルス感染が今年は左下のグラフの様に33週より急増しました。総社市内の多くの保育園や託児所などの報告があり、ウイルスは市内全域に広がっています。RSウイルスは、かぜの原因のウイルスのひとつで感染経路は飛沫感染や接触感染です。乳児が感染すると、細気管支炎や肺炎になり入院が必要となる症例もあります。また、免疫の低下した高齢者も重症になる事があります。しかし、成人や年長児ではいわゆる感冒で治癒します。つまり、気付かないでRSウイルスに感染している人は多くいます。感冒症状のある人は、乳児や高齢者に接触する場合は、マスクの着用・手洗いの励行に努めて下さい。

RSウイルス迅速検査が保険適応になっているのは、1歳未満の子ども等のみです。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)